新潟西部地域
「新之助」生育情報　No.6

令 和 6 年 7 月 18 日
巻農業普及指導センター

●出穂期は８月11日頃の予想です。
●葉色が濃いほ場での１回目穂肥は
見送り前提の慎重な対応としましょう。

【7月18日の生育データ(指標値比)】

草丈「長い」、茎数「やや少ない」、葉数「並」、**葉色「濃い」**

区分	調査地点	移植日	草丈(cm)		茎数(本／㎡)		葉数(L)		葉色(SPAD)	
			本年値	指標比 %	本年値	指標比 %	本年値	指標差L	本年値	指標差
分施	巻(普及)	5月14日	76	123	639	120	11.9	−0.2	37.5	3.5
全量基肥	巻	5月18日	77	124	445	84	12.1	0.0	32.8	−1.2
	岩室	5月11日	65	105	518	97	11.4	−0.7	34.0	0.0
	潟東	5月10日	80	129	399	75	12.9	0.8	41.3	7.3
	中之口	5月12日	73	118	417	78	12.2	0.1	38.8	4.8
	黒埼	5月10日	71	115	548	103	12.0	−0.1	34.6	0.6
	にいがた西	5月11日	80	129	497	93	11.9	−0.2	36.9	2.9
全体平均		5月12日	75	120	495	93	12.1	0.0	36.6	2.6
指標値		5月15日	62		532		12.1		34.0	
近年値		5月13日	68		470		12.0		34.5	

※調査地点：JA新潟かがやき「越後中央」新之助研究会、JA新潟かがやき「みらい」新之助栽培研究会、普及センター気象感応ほ調査データ
※近年値はH29～R5までの平均値

【穂肥量のめやす】

(1)分施栽培1回目

○１回目の穂肥時期は出穂期21～18日前（幼穂長が５～10㎜となった時期）で、
７月21～24日頃です。<u>ほ場毎に幼穂長を確認し、適期に適正量を施用しましょう。</u>

○穂肥量は１回当たり窒素成分で１kg/10aがめやすです。
ただし、葉色がSPAD値32以下まで低下し、栄養凋落が予想される場合は、
１回当たり1.5kg/10aまでをめやすに、施用量を増やしましょう。

【１回目穂肥時（７月21～24日頃）の生育量めやす】

草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉色(SPAD)
67	500	33.0

<u>※葉色が濃く、SPAD値が36.0を超える場合は1回目の施用を見送りましょう。</u>

(2)分施栽培2回目

○２回目の穂肥時期は出穂期の12～10日前です。
１回当たりの窒素成分は、下表を参考にしてください。

穂肥2回目施用時の葉色(SPAD値)	32.0未満	32.0以上 34.5未満	34.5以上 37.0未満	37.0以上
施肥窒素量 (kg/10a)	1.5	1.0	0.5	施用しない

(3)全量基肥栽培の場合

○幼穂形成期(７月19日頃) 以降に葉色が低下しても、穂肥成分の溶出により出穂期10日前頃（８月１日頃）から葉色が回復しますので、<u>原則、追肥は控えましょう</u>。
ただし、葉色が淡く、出穂期の葉色（SPAD値）34.0を確保できないと見込まれる場合は追肥を検討しましょう。

【病害虫防除】

○ 穂いもちは、原則として予防防除を実施して下さい。

「水稲栽培技術対策資料No.5」、
「新潟市西蒲区・西区版　水稲管理技術情報(YouTube)」
で 参考情報提供中！

←YouTubeのQRコード

次回調査は７月30日